

背景と目的

国連食料農業機関（FAO）は、食料・農業に係る意思決定、政策、投資の鍵となる信頼性の高い統計情報の収集、分析のため加盟国を支援しています。

現在、アフリカ地域では米の消費量が他のどの主要な主食作物よりも急速に伸びていることから、アフリカ諸国の効果的な政策立案、実施、監視を確実に行うためにコメの生産量統計は不可欠なものとなっています。本事業では、FAOの南南協力のフレームワークを活用して、かつて我が国が協力し育成されたアセアン諸国の農業統計専門家をアフリカ諸国に派遣し、コメの生産量統計整備を支援することを目的としました。

主な活動内容

- ・ アフリカ地域における農業統計の発展段階及び国内におけるコメ生産の重要性を鑑み、事業対象国9か国（ベニン、コートジボアール、エチオピア、ガーナ、ケニア、ナイジェリア、マダガスカル、セネガル、ウガンダ）を選定。
- ・ アフリカ諸国の現状把握に基づく効率的な調査手法の開発及びウガンダでのパイロットテストを実施したうえで、メンバー国を対象に調査手法の適用可能性の検討のためのワークショップを開催。選定された調査手法を基に研修資料を作成。
- ・ 各メンバー国において政府職員と調査担当者を対象に国内研修とパイロット調査を実施し、コメの作付面積、単収、生産量などを推計。
- ・ 事業の中間年にガーナにおいて中間評価ワークショップを開催し、プロジェクトの作業計画を修正、国内活動の結果を共有。
- ・ 事業の最終年にケニアにおいて検証ワークショップを開催し、対象国および関連機関職員の参加を得て、各国内活動の成果を共有するとともに、アフリカ地域におけるコメ生産量調査の改善策を議論。

事業成果

- ・ プロジェクト対象9か国において、コメの作付面積や収量に関する信頼できる統計をタイムリーに収集し、提供するため、800人以上の政府職員及び調査員の能力を向上させることに貢献するとともに、コメ収穫量調査実施のためのガイドラインを作成しました。
- ・ 我が国が主導するアフリカ支援のための開発会議（TICAD）の枠組みの下、食料安全保障の確保のため実施されているコメの生産量の倍増を目的とするアフリカ稲作振興のための共同体（CARD）イニシアティブの進捗状況モニタリングに貢献しました。



アセアン諸国からの農業統計専門家によるコメの単収調査指導



ガーナ政府職員、アセアン農業統計専門家、プロジェクト・コーディネータの研修時の記念写真